

4. 代謝・内分泌疾患

文献

向野義人、荒川規矩男、恒矢保雄. 肥満の耳針療法における噴門点と肺点の効果差 全日本鍼灸学会誌 1984; 33(3): 279-84. 医中誌 Web ID: 1985031761

1. 目的

肥満の耳針療法における噴門点と肺点の食欲抑制効果と水代謝への効果差の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

福岡大学医学部第二内科、福岡、日本

4. 参加者

18-50歳の外来患者で、肥満度110%以上の単純性肥満の者 42名。空腹時血糖110mg/dlを超える者及び症候性肥満、合併症などで薬剤投与を受けている者は除外。

5. 介入

Arm 1: 噴門点治療群 (20名)。両耳の噴門点に皮内針を約1mmの深さに2本ずつ刺し、バンソウコウで固定し留置した。1週間毎に針を交換し、2週間継続した。

Arm 2: 肺点治療群 (22名) 肺点に同様の治療を行った。

Arm 1、Arm 2でそれぞれ1名が脱落

6. 主なアウトカム評価項目

摂食量、空腹感、満腹感、水分摂取量、尿量及び尿回数の変化、体重、空腹時血糖、血清Na、BUN、血清浸透圧、抗利尿ホルモン (ADH) の治療前後での比較。なお、採血は早朝空腹時とし、前夜午後10時以後は絶食とした。

7. 主な結果

摂食量、空腹感、満腹感については、両群共に摂食量と空腹感の減少、満腹感の亢進を認めたが、両群間に有意な差はなかった。水分摂取量は多くの例で減少しているが、両群間の差は認めなかった。1回尿量の増加した症例はArm 2に多かったが、有意な差でなかった。尿回数は、Arm 2に尿回数が増加した症例が多い傾向が見られた ($P<0.10$)。血清浸透圧はArm 2で有意に減少したが、Arm 1の変化は有意でなく、両群間の変化量に有意差を認めなかった。ADHはArm 2では有意に減少した ($P<0.02$) が、Arm 1では有意の変化はなく、両群の変化量の間には有意な差を認めなかった。体重、空腹時血糖、血清Na、BUNに関して両群間にほとんど差がなかった。

8. 結論

噴門点、肺点の食欲抑制及び体重減少効果は同等であるが、水代謝への関与には相異があり、噴門点と肺点の生理的意義は異なる。

9. 鍼灸学的言及

皮内針の留置部位は、神経解剖学的見地から決められた。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

迷走神経分布があることから自律神経系の調節に関連した食欲抑制効果があると考えられる耳甲介腔領域の皮電点の中で、肺点と噴門点の効果差を比較し、肺点の特異的な生理的意義を示唆した興味深い研究である。肺点と噴門点の位置は皮電計による測定にて決定されたと推察されるが、本文中に記載がない。また、要旨記載項目である空腹感及び満腹感のデータが示されていないことは残念である。血清浸透圧が低下するにもかかわらず水分摂取量が減少し、ADHは減少し尿量が増加するという negative feedback system から矛盾している理由について、耳針による体液の自動調節機構の reset と考えることで説明しているが、その機序については説明が十分とは言えない。同じ耳甲介腔領域の皮電点であり、食欲抑制効果は同等であるが、水代謝への影響という点での肺点の特異的な生理的意義を示唆した点で、臨床的にも意義ある研究である。

12. Abstractor

岡田明子 2010.12.28